

第222回 大阪小児科学会

◇◇ プログラム ◇◇

■ Aセッション(14 : 00~14 : 36)

座 長 小 川 哲 (大阪府済生会吹田病院 小児科/NICU科)

1. 当院で経験したミオクローヌス欠神発作の1例
大阪医科大学附属病院 小児科
島川修一, 福井美保, 北原 光, 荻野元子, 利川寛実, 芦田 明
2. 母乳感染が疑われた超低出生体重児の後天性サイトメガロウイルス感染症：
2例の経験と予防策に関する考察
関西医科大学 小児科学教室
浦上智加, 平林雅人, 赤川翔平, 外山有加, 木野仁郎, 峰 研治, 大橋 敦,
辻 章志, 金子一成
3. 在宅用人工呼吸器Vivo[®]を用いてHigh Flow Nasal Cannula (HFNC) 療法を在宅に導
入したNICU退院児8例の検討
大阪大学大学院医学系研究科 小児科
鶴長玄哉, 谷口英俊, 福井裕香, 辻田麻友子, 荒堀仁美, 北畠康司, 大藪恵一

■ Bセッション(14 : 36~15 : 12)

座 長 大 幡 泰 久 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)

4. バセドウ病に緩徐進行1型糖尿病 (SPIDDM) を併発した1男児例
堺市立総合医療センター 小児科
黒飛友里, 井代 学, 高野良彦, 入山 昌, 高柳恭子, 川上展弘, 岡村隆行
5. 性分化疾患児と家族の支援における児童精神科医の役割
大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 子どものこころの診療科¹⁾,
同 消化器・内分泌科²⁾, 同 泌尿器科³⁾
前川加奈美¹⁾, 平山 哲¹⁾, 三宅和佳子¹⁾, 庄司保子²⁾, 川井正信²⁾, 恵谷ゆり²⁾,
位田 忍²⁾, 松井 太³⁾, 松本富美³⁾, 小杉 恵¹⁾
6. 成人発端者からの家族内検索で見えられたFabry病の1家族
和泉市立総合医療センター 小児科¹⁾, 国立成育医療センター 臨床検査部²⁾
澤田 智¹⁾, 須永紋奈¹⁾, 松谷恵里¹⁾, 矢崎耕太郎¹⁾, 坂東賢二¹⁾, 小須賀基道²⁾,
村上城子¹⁾

■ 総 会(15 : 12~15 : 22)

議 長 濱 崎 考 史 (大阪市立大学医学研究科 小児発達学)

■ 休 憩(15 : 22~15 : 30)

教育講演

(15 : 30~16 : 30)

座長 大 藪 恵 一 (大阪大学大学院医学系研究科 小児科学)
新専門医制度 更新基準 iii小児科領域講習 (1点) 対象講習
「中枢神経障害に対する新しい治療法の試み」
濱 崎 考 史 (大阪市立大学医学研究科 小児発達学)

■ Cセッション (16 : 30~17 : 06)

座長 山 本 勝 輔 (大阪母子医療センター 腎・代謝科)

7. 腎機能障害の原因として寡少糸球体症が疑われた21トリソミーの1例
近畿大学病院 小児科学教室
久家沙希那, 塩谷拓嗣, 宮崎紘平, 中村好秀, 杉本圭相
8. 腹部MRI検査で急性巣状細菌性腎炎を診断したDuchenne型筋ジストロフィーの8歳男児例
堺市立総合医療センター 小児科
村田賢哉, 川上展弘, 高野良彦, 高柳恭子, 井代 学, 入山 晶, 岡村隆行
9. 高度腎機能障害を認めた急性尿細管間質性腎炎の一例
大阪市立総合医療センター 小児総合診療科
山田直紀, 松田百代, 久富隆太郎, 藤丸季可

■ Dセッション (17 : 06~17 : 42)

座長 長 谷 川 泰 浩 (箕面市立病院 小児科)

10. 成長障害を合併したクローン病の2例
大阪大学大学院医学系研究科 小児科学¹⁾, 市立豊中病院 小児科²⁾
杉浦愛子¹⁾²⁾, 大沼真輔¹⁾, 福岡智哉¹⁾, 里村宜紀¹⁾, 木村武司¹⁾, 橘真紀子¹⁾,
別所一彦¹⁾, 三善陽子¹⁾, 大藪恵一¹⁾
11. 発熱・関節炎・紅斑を主徴としたHLA-B*35・B*39陽性Crohn病の女児例
大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学
西村圭祐, 磯浦喜晴, 義之愛子, 趙 有季, 柿下優衣, 左 信哲, 時政定雄,
徳原大介, 濱崎考史
12. 非典型的な腸重積症の6歳男児例
大阪赤十字病院 小児科¹⁾, 同 小児外科²⁾, 同 消化器内科³⁾
今井智恵¹⁾, 上林エレナ幸江²⁾, 邊見慎一郎³⁾, 藤野寿典¹⁾, 荻野 諒¹⁾,
楠本将人¹⁾, 天満祐貴¹⁾, 土井 響¹⁾, 原田太郎¹⁾, 巽 亜子¹⁾, 内藤拓人¹⁾,
中道恵里那¹⁾, 新居 敏¹⁾, 安西香織¹⁾, 竹川麻衣¹⁾, 肥田晋矢¹⁾, 野村安隆¹⁾,
坂本晴子¹⁾, 葭井操雄¹⁾, 住本真一¹⁾, 林 宏昭²⁾, 大野耕一²⁾

• A~Dセッションは講演各6分, 討論各6分とし, 教育講演は講演50分, 質疑応答10分とします。

第12回「低線量被ばくを考えるセミナー」

日時：2019年6月15日(土)

大阪小児科学会（大阪大学中之島センター（10階）終了後開催

会場：学会終了後、同じ会場で引き続き開催。講演と質疑で約2時間を予定。

東京電力福島第一原発事故後の小児甲状腺がんの多発と伊達市のガラスバッチ研究不正問題

神戸大学 大学院 海事科学研究科 教授
山内 知也 先生

福島県県民健康調査－甲状腺検査2巡目以降の検査でも高い甲状腺がんの発生率が確認されているにもかかわらず原発事故との関係を否定している議論の問題を国連科学委員会（UNSCEAR）の振る舞いも含めて点検します。また、「福島第一原発事故後に測定された福島県伊達市の住民の個人被ばく線量のデータを基に、早野龍五・東京大名誉教授らが英科学誌に発表した2本の論文」の問題を線量計測の視点から概観して放射線審議会の動きとも合わせて問題提起します。

講師紹介：放射線物理、放射線計測の研究－放射線が物質に与える影響を放射線物理や放射線化学の基礎的視点から研究－に永年携わってこられました。著書に「放射線被ばくによる健康影響とリスク評価・欧州放射線リスク委員会（ECRR）」監訳があり、この新しい考え方を我が国に紹介された研究者でおられます。

主催：大阪小児科学会地域医療委員会